

第2回KBICグローバルウェビナー

開催日時

2021.3. 15 MON
15:30 – 17:30

会場 Zoom Webinar

参加費 無料

定員 450名

言語 日本語・英語(同時通訳有り)



デンマーク大使館
インベストメントマネージャー
(技術連携マッチング担当)
村上 有美 氏



デンマーク大使館
インベストメントマネージャー
(ライフサイエンス担当)
飯田 留美 氏



Head management KI-SIGS,
UniTransferKlinik Luebeck GmbH
Dr.-Ing. Tim Suthau



Director institute for Software Engineering and
Programming Language, University of Luebeck,
CEO UniTransferKlinik Luebeck GmbH Prof.
Dr. Martin Leucker

プログラム

15:30～ 主催者挨拶

(公財)神戸医療産業都市推進機構 クラスター推進センター統括監 花谷 忠昭

15:35～ 『世界電子政府ランキングNo.1の国デンマークでおきるヘルスイノベーション』

デンマーク大使館 インベストメントマネージャー(技術連携マッチング担当)



村上 有美 氏

デンマーク大使館 インベストメントマネージャー(ライフサイエンス担当)

飯田 留美 氏

16:35～ 『インテリジェントヘルスケアシステムへのAI活用、欧州での事業機会と挑戦』

Dr.-Ing. Tim Suthau, Head management KI-SIGS, UniTransferKlinik Luebeck GmbH



Prof. Dr. Martin Leucker, Director institute for Software Engineering and Programming
Language, University of Luebeck, CEO UniTransferKlinik Luebeck GmbH

17:20～ 閉会の挨拶

Dr. Hinrich Habeck, Managing Director, Life Science Nord Management GmbH

お申込み 下記URL又は右QRコードからお願いいたします。

https://www.fbri-kobe.org/kbic/event/detail.php?event_id=393

(主催) 公益財団法人神戸医療産業都市推進機構

(共催) 神戸市

(後援) デンマーク大使館、Life Science Nord Management GmbH

一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J)



お問合せ

(公財)神戸医療産業都市推進機構 クラスター推進センター 小林・渡邊

E-MAIL: inquiry@fbri.org TEL: 078-306-0719

登壇者プロフィール



デンマーク大使館 インベストメントマネージャー（技術連携マッチング担当）
村上 有美

東北大学農学部大学院卒。国内の医療機器メーカー等で研究・事業開発従事後、仏大学院薬学部修了。現地のコンサルタント会社を経て、欧州消費財メーカーにて製品開発等を担当。現在は国内外組織の研究開発促進のための技術マッチング、市場進出・組織改善の戦略立案サポート、科学技術ブランディングを行う。



デンマーク大使館 インベストメントマネージャー（ライフサイエンス担当）
飯田 留美 氏

津田塾大学英文科卒。ドイツ系銀行、デンマーク系医療機器会社(Radiometer)日本支社を経て、デンマーク大使館投資部(Invest in Denmark)に勤務。現在に至る。デンマーク大使館投資部では、デンマークで事業を行う際に必要となる情報をはじめ様々な支援を可能な範囲で提供している。デンマークと日本の産学連携・企業間の連携も促進している。



Dr.-Ing. Tim Suthau
Head management KI-SIGS, UniTransferKlinik Luebeck GmbH

Dr.-Ing. Tim Suthauは、UniTransferKlinik Lübeck GmbHで、人工知能(AI-SIGS)、相互運用性とネットワーキング(OR.NET)などのヘルスケア分野におけるアプリケーション指向の研究プロジェクトの立ち上げと実施に深く関わっており、主に規制要件と将来の技術の実装の可能性に注力している。2008年には外科用顕微鏡のメーカーである Haag Streit Möller Wedel のリューベック拠点ソフトウェア部門を立ち上げる。その後、R&Dディレクターとして、長年にわたりMöller Wedel社の研究開発の全領域を担当し、デジタルトランスフォーメーションの設計に重要な役割を果たした。Tim Suthau氏は独ベルリン工科大学でコンピュータービジョンについて、さらに、2006年にはハイデルベルグのがん研究センターにて拡張現実の分野で学位論文を執筆した。デジタル変換分野での多様な経験をもとに、新しい技術やトレンドの取入れ、市場開拓等に取り組んでいる。



**Director institute for Software Engineering and Programming Language,
University of Luebeck, CEO UniTransferKlinik Luebeck GmbH**
Prof. Dr. Martin Leucker

Prof. Dr. Martin Leuckerは現在独リューベック大学の教授として、ソフトウェア工学とプログラミング言語の研究所を統括するとともに、UKSH病院といくつかの大学や企業が出資する技術移転会社UniTransferKlinik GmbHのCEOを務めている。独アーヘン工科大学で博士号を取得、その後、米フィラデルフィア大学とスウェーデンのウプサラ大学でポスドクとして勤めた。その後、独ミュンヘン工科大学で教授職を得ました。ソフトウェアエンジニアリング、形式手法、理論計算機科学、医療分野への応用など、100以上の査読付き学会論文やジャーナル論文を執筆した。医療分野における国内および国際的な科学プロジェクトをリードしている。

講演要旨

『世界電子政府ランキングNo.1の国デンマークでおきるヘルスイノベーション』

デンマークでは1968年より全国民に日本のマイナンバーにあたるCPR番号が付与されており、現在でもサンプル数が増え続けている世界最大級のバイオバンクの生体試料や生活に関わるありとあらゆる情報がそのIDナンバーに紐づいています。国連で世界一と評価されたデジタル国家がどのようにしてその仕組みをつくり、またそれらの情報を健康医療を含む社会システムの改善にどのようにして活用しているか、事例をあげながらご紹介致します。

『インテリジェントヘルスシステムへのAI活用、欧州での事業機会と挑戦』

 KI-SIGS プロジェクトでは、適応型医療のほか、学習型ロボット支援やスマートリビングホームアシスタントなどを対象としたインテリジェントヘルスシステム構築を目的とした「AIプラットフォーム」の設計と実装を進めています。このAIプラットフォームは、様々なステークホルダー、技術、企業で構成される北ドイツで生まれつつあるエコシステム（実はヨーロッパや世界各地の活動にもうまく組み込まれる）で使用されることを前提としています。なお、健康産業におけるAIシステムでは、世界各国で承認を受けるべく規制作りにも力を入れています。

本講演では、インテリジェントヘルスシステムのためのAIプラットフォームのアイデアと実装、さらにはAIを活用したヘルスシステムの欧州導入にむけた規制対応について詳しく説明致します。